



愛の手であなたをつつむ 被害者支援

# 会報 ふくしまの空

発行 公益社団法人ふくしま被害者支援センター  
〒960-8002 福島市森合町14-6  
事務局 TEL&FAX 024-533-7830  
ホームページアドレス <http://www.vsc-fukushima.net/>

## 被害者支援の活動について

福島県警察本部長  
林 学



犯罪や事故による被害者の方々を支えるため、日々ご尽力されている公益社団法人ふくしま被害者支援センターの職員の皆様方、そしてこれらの活動を支えておられる会員の皆様方には、平素より、警察が行う犯罪被害者支援業務に対しまして、ご支援・ご協力を賜っておりますことに厚く御礼を申し上げます。

さて、県内の治安情勢につきましては、昨年は刑法犯の認知件数が、17年連続で減少し、戦後初めて1万件を下回りました。また交通事故の発生件数、死者数とも減少し、特に死者数は、現行の統計が始まった昭和28年以降最少の61人となりました。

そうした中にあっても、日々発生する事件・事故により多くの方が被害に遭われております。事件・事故の被害者やそのご家族は、身体的・精神的負担に加え、経済的負担も強いられており、関係機関・団体が連携協力して被害者の方々に寄り添った支援を継続して行うことが重要であります。

県警察では、こうした被害者等の現状を踏まえ、事件・事故に遭われた方に対して、「被害者の手引」を配布し、被害者等が利用できる支援制度、相談窓口及び刑事手続等を包括的に説明するとともに、捜査の状況や加害者の処分結果等の連絡、病院等への付添いなどの支援を実施しているほか、警察本部に臨床心理士を複数配置し、専門的なカウンセリングを行っております。また、殺人などの犯罪行為により亡くなられた方のご遺族や重傷病を負った犯罪被害者等に給付金を支給する犯罪被害給付制度のほか、事件立証上必要な診断書料、性犯罪被害者に係る一部医療費、一時避難場所の使用料などを公費で負担する制度を運用しております。さらに、広報啓発活動として、中高生を対象とした「命の大切さを学ぶ授業」や、地域での各種会合の機会にミニ講座などを実施する「被害者に優しいふくしまの風運動」を皆様方のご協力をいただきながら積極的に展開しているところであります。

このほか、性暴力等被害救援協力機関(SACRAふくしま)は、支援センター、県産婦人科医会、県警察、県、県教育委員会の五者が連携・協力し、被害者等がワンストップで支援を受けられるよう取組を推進しているところであります。

県警察としましては、今後とも、被害者の方々に寄り添った、きめ細かな各種支援業務に一層努めてまいりますので、引き続き、皆様方からのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、ふくしま被害者支援センター及び会員の皆様方のますますのご発展と合わせて、被害者支援の輪が広がり、地域全体で被害者を支える社会が実現されますことをご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。

# 被害者支援活動の実施状況 2019年1月~12月分

## 1 相談件数(継続相談を含む)

■電話 262件(月平均21.8件)      ■面接 10件(月平均0.8件)      ■直接支援 89件(月平均7.4件)

## 2 相談の内訳

### ■電話相談内容

被害内容	件数	被害内容	件数
殺人(傷害致死)	6	財産的被害	12
強制的性交等	81	DV	5
強制わいせつ	5	ストーカー	3
その他の性暴力	75	虐待	2
暴行・傷害	3	その他	56
その他の身体犯	1	計	262
交通事故	13		

### ■直接支援内容

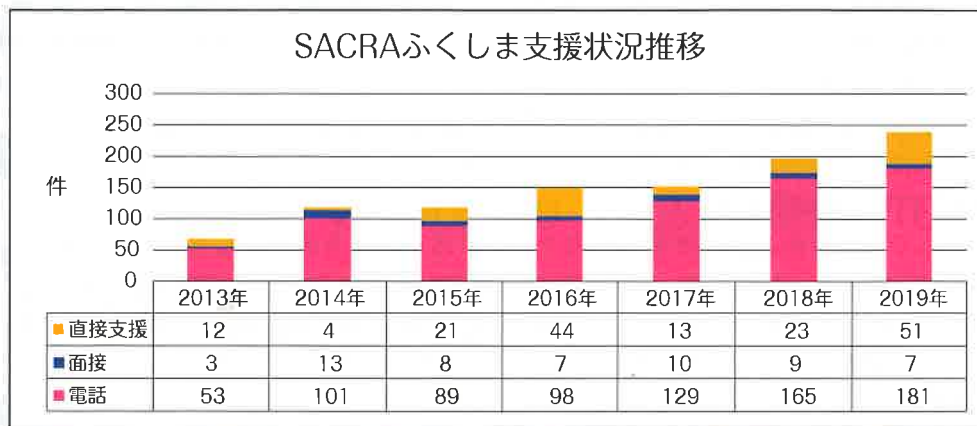
支援内容	件数
警察への付添	2
裁判等への付添	49
病院への付添	10
自宅訪問	2
支援金等の支給	8
その他	18
計	89

# 上記の内「SACRAふくしま」の相談状況 2019年1月~12月分

## 1 相談件数(継続相談を含む)

■電話 181件(月平均15件)      ■面接 7件(月平均0.6件)      ■直接支援 51件(月平均4.3件)

## 2 SACRAふくしま支援状況推移



# 被害者に優しいふくしまの風運動 “支援の輪を広げるつどい2019”開催

11月30日(土)福島市とうほう・みんなの文化センターにおいて開催しました。

このつどいは、当センター・福島県・福島県警察本部の共催で行われ、今回で11回目を迎えました。一人ひとりが身近な問題として犯罪被害について考え、地域社会全体で犯罪被害者の方々を支えていくことが大切です。

そのために、犯罪被害者の苦しみや悲しみ、地域における被害者支援の必要性や重要性を理解し、1日でも早く再び平穏な生活を取り戻していただけるようにすることを目的としています。

第一部では、「命の大切さを学ぶ授業」作文コンクール表彰式を行い、警察本部長・教育長・当センター理事長が受賞者に表彰状を手渡しました。

受賞者は次のとおりです。

## 【県警察本部長賞】

- ・市川葵子さん(桑折町立醸芳中学校)
- ・平子七海さん(県立会津学鳳高等学校)

## 【教育長賞】

- ・坂元裕月さん(本宮市立本宮第二中学校)
- ・佐藤綺音さん(県立会津学鳳高等学校)

## 【ふくしま被害者支援センター理事長賞】

- ・草野陽子さん(二本松市立安達中学校)
- ・真壁侑大さん(県立会津学鳳高等学校)

受賞作品については、次ページに掲載しております。

第二部の基調講演では、ミシュカの森主宰・「えんじにあず」代表取締役入江杏氏に「悲しみを生きる力に」をテーマに講演していただきました。

入江さんは2000年末、8年間の英国生活から帰国された直後、世田谷一家殺人事件により、隣地に住む妹一家四人を亡くされました。

犯罪被害者の悲しみ・苦しみと向き合い、葛藤の中で「生き直し」をした経験について話しをされました。



センター副理事長挨拶



基調講演の様子



支援コンサートの様子

第三部の支援ミニコンサートでは、「弦楽四重奏団 TOHOカルテット」のメンバーが心に響く演奏を披露されました。

## 警察本部長賞



### 命の大切さを学ぶ授業に参加して

桑折町立醸芳中学校 2年  
市川 葵子

朝の読書の時間を使って1枚のプリントが全員に配られた。表には「あなたと生きるために」という題名で書かれた文章、裏には「白鳥」という題名の曲の歌詞が書かれていた。プリントにどんどん目を通してゆくみんなに続いて、私も黙々とプリントを読み進めた。

「集団登校中の9人の列に飲酒運転の軽トラックが突っ込み、2人が死亡、6人が怪我をする事故が起きました。(加害者の罰はわずが懲役4年)」

という文章に目が止まった。教室を見渡すと、泣いている人がいた。私は必死に涙を堪えた。

私は、命がほんの一瞬で奪われてしまうことを知った。自分の大切なものを奪われる悲しさ、悔しさはどれほどのものか、私には想像もつかない。どんなに気を付けていても一瞬で奪われる命。大切に育てられた命、たくさんの夢を果たせずに飛び立った命。彼女の両親はどれだけ涙を流しただろう。お兄さんたちは、助けてあげられなかった自分をどれだけ責めただろう。悲しみで胸が締めつけられた。

命の大切さを学ぶ授業は、亡くなった涼香ちゃんのお母さんが、涼香ちゃんについて、残された家族について、静かにゆっくりと話をしてくれた。涼香ちゃんが産まれた5月、涼風のように心地よく、たくさんの人を幸せに包んでほしいと名づけられた。勉強、体育大好き、かけっこ得意の明るい子。できるまで頑張る芯の強さや思いやりの深さは出会う人に勇気と元気を与えてくれた。そんな涼香ちゃんは、小学1年生の11月、楽しみにしていたクリスマスを迎えることなく亡くなった。

ずっとずっと一緒にいたかったのに、やりたいことがたくさんあったのに。彼女の悔しさや悲しみが痛いほど伝わってきた。お兄さんたちがどんなにお願いしても、サンタさんは妹をつれてきてはくれなかった。

家族が、涼香ちゃんを忘れず一緒に生きていくために、私たちに語りかけてくれる。命の大切さを、命のはかなさを。私たちの命も常に危険と背中合わせだと。平凡な当たり前の生活がどんなに幸せかを教えてくれた。

お兄さんのつくった「白鳥」の歌が静かに流れてきた。妹への優しい気持ちが、忘れられない気持ちが、白鳥になった涼香ちゃんに話しかける。僕は幸せなんだよ。君のために生きるよ。一緒に生きようと。

悲しい事故のニュースが今も後を絶たない。ほんの少しの気の緩みで、本当に取り返しのない事故が起こってしまう。涼香ちゃんのような、涼香ちゃんのような家族のような悲しい思いをしたくない。してほしくない。その願いを心に刻み、家族や友達、周りの人たちにも伝えていきたい。

## 警察本部長賞



### 講演を聴いて考えたこと

福島県立会津学鳳高等学校 1年  
平子 七海

今年の5月、忌まわしい大きな交通事故、事件が立て続けに起きた。元号が令和に改定され、新しい時代の幕開けに国民が祝福ムードに包まれていた時期に、多発する事故のニュースが連日、テレビで報道されたことは、少し異様な光景だった。そして、毎日、日本のどこかで失われてゆく命をニュースが淡々と報道する様子に、現代に生きる私たちは、間近にあるはずの死の存在を忘れていくようにも思える。

家族を失った経験の無い私は、命の大切さをよく知らずに生きている。講演で、ご遺族の女性の涙の訴えを聴き、そう気づかされた。学校で生活していると、「消えたい」や「死にたい」という言葉を頻繁に耳にする。そのほとんどが冗談で、少しテストの点数が悪かったり、部活動の忙しさで休みが無かったり、先生に怒られたりしたときに、自分も言った経験がある。若者の世界には、思っている以上に死を軽視した言葉があふれている。命の重さとは、一体どれほどのものなのだろう。

厚生労働省の統計によると、2018年、15歳から39歳までの死因順位第1位は自殺である。そのことは数年間変化しておらず、不慮の事故による死亡者の数を上回っているという事実非常に驚いた。

平成の中で、14年間も自殺者数が3万人を超える状態が続いたことは、大人達によく「最近の若者は命を甘く見ている。」と言われるのも必然的だと思った。確かに、ツイッターなどのSNSにおいて学生の飛び降り自殺の瞬間の動画が拡散されているのは事実だ。インターネット上で「自殺配信」という言葉を目にすることもある。しかし、これほどまでに自殺者数が増加した原因は全て、若者の「命」に対する価値観にあるのだろうか。きっとそうではなくて、現代社会の風潮や友達を取り巻く環境が、若者を生きづらくさせているのだと私は思う。

講演の最後、ご遺族の女性の「息子の分まで生きてください」という言葉が私の頭にずっと残っている。中学生の頃から生きるのに肯定的になれずにいた私には、この一言をすぐに受け入れることは難しかった。中学生の時、本当は尊重するべき当たり前の日常が続くことに対して、絶望すら感じていたからだ。毎日学校へ通う以上、同じような日々が繰り返されることに耐えられずにいた。これから先の長い人生に漠然とした不安を抱き悩んでいた私を変えたのは、当時担任だった先生からのひとつの質問だった。

「生きていると思う？生かされていると思う？」

きっと、この問いに正解はないのだと思う。けれど、この質問をされてから2年経った今、私が出した答えは「生かされている」だ。「生かされている」と考えるだけで、今ある命に感謝することができた。講演で、女性が失った子供の命を惜しんで泣いている様子を見たとき、私が持っているたったひとつのこの命は、自分だけのものではないのだと分かった。もし本当に「生かされている」のならば、この命は、私のことを大切に想ってくれる家族や友人のための命でもあると思う。

自殺する人が後を絶たない世の中だ。自分自身が生きる意味を見つけるのは本当に難しい。それでも人は関わり合っているのだから、きっと誰かは私を必要としているはずだ。そのことを忘れないでいたい。今生きているこの一瞬一瞬を大切に、普段支えてくれる人への感謝の心を持ち続けて人生を全うしたい。

# － センターニュース －

## ●令和元年度質の向上下半期研修会を実施

令和元年11月7日(木)から11月8日(金)福島市ホテル福島グリーンパレスにおいて、全国被害者支援ネットワーク主催による質の向上下半期研修会が開催されました。

直接的支援・関係機関との連携・人材育成・相談技術・自助グループの運営方法について各講師から講義を受けました。

当センターの支援活動員3名が参加しました。



生島理事長挨拶



研修会の様子

## ●街頭広報・募金活動を実施

当センターでは、11月25日(月)から12月1日(日)の「犯罪被害者週間」に合わせて、福島市・会津若松市・郡山市・いわき市において街頭広報・募金活動を行い、悲惨な事故や犯罪の被害者への支援には、理解と協力が必要と訴え、募金を呼びかけました。



福島市(JR福島駅東口広場)



会津若松市(リオンドール会津アピオ店前)



郡山市(JR郡山駅西口中央広場)



いわき市(JRいわき駅南口駅前広場)

**【支援員さんから一言】**～全国被害者支援フォーラム2019に参加した支援員さんから感想を伺いました～  
今回の研修を通して被害に遭った子どもたちへの中長期的支援のための連携として社会で支える体制作りが大切であり、それぞれの事例への引継ぎが重要であることを学んだ。

出会った人が主体的に動くことが出来るネットワークが大切であり、いかに各機関が専門性を持ち関わるかが特に重要であると学んだ。

この機会を生かして電話相談や面接などに活かしていきたいと思います。(支援活動員Yさん)

# ホンデリング ～本で広がる支援の輪～ とは？

犯罪被害に遭って身体や心を傷つけられたり、大切なものを失ったりして苦しんでいる方たちが安心した生活を取り戻せるように、あなたの本をご寄付ください。あなたの本のご寄付で、犯罪被害に遭われた方々への支援の輪が広がります。



## あなたの本でできること

### 電話・面接相談



被害者の方々のお気持ちを理解しながらお話を聞いて、今大事なことを一緒に考えていきます。

### 付添い支援等の充実



犯罪の被害に遭い、精神的なダメージ等を抱えたまま、様々な手続きを行うには困難が伴います。被害者の方々への病院や裁判所への付添い支援ができます。

### 広報・啓発活動



社会全体で犯罪の被害に遭われた方々を支えるため、支援の必要性が広く社会に周知されるよう、広報活動を行なっています。

## このような本が、支援につながります

### ★本の場合

ISBNコードが付いているものが対象です。

ISBN978-4-949999-12-0  
C3000 ¥2000E

ISBNコード



9784949999120

本の裏表紙



1923000020009

### ★CD・DVD・ゲームの場合

規格品番が付いているものが対象です。



SRCL  
7394-5

ADE0274

## お申し込み方法

不要になった本・CD・DVDを箱に詰める。

5冊以上



ふくしま被害者支援センターに電話する。  
(024-533-7830)



宅配業者がご指定の時間に引き取りに伺います。(1回の集荷は3箱以内)



査定され、買取相当額が当センターに寄付されます。  
※発送費用は不要です。



犯罪・交通事故等被害相談  
ふくしま被害者支援センター

024-533-9600

月～金 10:00～16:00  
※土日祝日・年末年始を除く

性暴力等被害相談

SACRA ふくしま

024-533-3940

月・水・金 10:00～20:00  
火・木 10:00～16:00  
※土日祝日・年末年始を除く

秘密は厳守します・相談は無料です

事務局



公益社団法人 ふくしま被害者支援センター

福島県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体

〒960-8002 福島市森合町14-6 TEL・FAX 024-533-7830

ふくしま被害者支援センターHP▶



## 【募金箱設置のご案内】

施設関係や企業及び団体に設置のご協力をお願いしています。

ご連絡いただければ、募金箱をお届けします。



寄付型

被害者支援自動販売機で

犯罪被害者を支援する  
活動のパートナーに  
なってください。



既設の自動販売機を  
活用できます。

寄付金は自由に  
設定可能です。

飲料代金から売上金の一部を  
犯罪被害者支援活動に寄付してください。

PRスペース(写真赤枠)に  
貼付けるだけで設置終了です。  
貼付けの費用はかかりません。



### 被害者支援自動販売機の設置協力企業

(順不同・敬称略)

(株)伊藤園

(株)サン・ベンディング東北

(株)サン・ベンディング福島

(株)サン・ベンディング相双

(株)ジャパンビバレッジホールディングス

サントリービバレッジサービス(株)

(株)ジャパンビバレッジ東北

キリンビバレッジ(株)

福島ヤクルト販売(株)

ダイドードリンコ(株)

コカ・コーラボトラーズジャパン(株)

三本コーヒー(株)

FVジャパン(株)



## 賛助会員募集中

当センターは、活動経費の多くが皆様の会費、ご寄付により運営されています。

**年会費** ○ 個人…1口 2,000円より ○ 法人・団体…1口 10,000円より

福島県公安委員会指定「犯罪被害者等早期援助団体」  
公益社団法人ふくしま被害者支援センター

<http://www.vsc-fukushima.net/>

〒960-8002 福島市森合町14-6 (福島中央郵便局向かい) TEL/FAX 024-533-7830

\*当センターは公益法人です。会費を納めたり、寄付をした場合は税法上の優遇措置があります。

\*寄付は金額を問いません。